消費者に人気の高い観光農園

市場規模は378億円

リピーター増やす環境整備

近年、グリーンツーリズムの広がりとともに収穫体験を行えるいわゆる「観光農園」の人気が高まっている。農水省が行っている6次産業化総合調査によると、観光農園の市場は平成27年で378億円。同調査が開始された22年度と比較すると26億円の増加と6次産業化の広がりとともに拡大を続けている。観光農園では、リピーターを定着させることが重要だ。そのために、基本的に美味しいことは大前提で、そのうえで居心地の良い環境づくりを行うことが不可欠となっている。

観光農園の現状について、平成27年度の6次産業化総合調査からみてみる。観光農園の総販売額は377億9800万円で前年度から3・8%の増加となった。なお、調査開始の22年度（352億4600万円）と比較すると、25億5200万円の増加と6次産業化の進展と共に着実に増加傾向となっている。

観光農園について、詳細をみてみると、経営体数は6700経営体でこのうち、5810経営体が農家（個人）。農家（法人）は180事業体、会社等は720事業体となっている。経営体数を年間利用者の規模別の割合でみると、もっとも多いのは100人未満の21・8%。次いで100～300人の16・8%、1000～2000人の14・8%などと続く。なお、5000人以上も10・4%となっている。

年間販売金額は総額が前述の通り377億9800万円。これを1農業経営体あたりの売上金額にすると564万円。売上金額を規模別の経営体数の割合でみると、100～500万円が39・6%で最も多い。次いで100万未満の36・5%、500～1000万円未満の13%などとなっている。また、1億円以上という層も0・6%ある。取り扱い品目では、果実が全体の85・6%とその9割近くを占めている。

直売にしろ、加工品にしろ、観光農園にしろ、繰り返し利用してくれるリピーターの存在は経営を安定させるうえで欠かせない存在だ。

居心地の良い環境作りが欠かせない

観光農園の場合、体験すなわち「思い出」を売る仕事だ。嫌な思い出が残ってしまうとリピートにつながらない。それだけでなく、SNSが発達した近年では悪評が広まってしまうこともありうる。取材中に知り合った女性いわく「作物が美味しいことはもちろん、トイレ、休けい所なども男女問わず重要なポイントだが、居心地の良い空間というのもすごく大事。

観光農園は拡大傾向に

農業現場では、いま女性や若者の活躍が求められている。そういった人達を呼び込むためには「活動しやすい環境づくり」が欠かせない。現在、農業の働きやすい環境作りが課題となっている。環境づくりには、働きがい、福祉面などに加え、男性、女性といったそれぞれにあった働きやすさの改革も必要だ。特に女性や若者にとって、トイレなど衛生面は気になるところだろう。

それらを含めた環境づくりの改善は全国各地で行なわれている。現在、公益社団法人日本農業法人協会は、特に女性の活躍を推進する各種の取り組みに注目、農業界で女性活躍の機運をさらに高めていく上でモデルとなるような経営体を選出「農業の未来をつくる女性活躍経営体100週（愛称WAP100）」としてまとめている。

WAP100

女性の活躍を推進

トイレ等働きやすい環境作り

その一つが青森県弘前市にある㈲ANEKKO。同社は「収入が年1回しかないリンゴ農家の現状を変え、農家の所得を向上させたい、地域農業を元気にしたい、地域を活性化したい」という理念の下、2005年11月に設立された法人。生産を行っているのはりんご、スイートコーン、枝豆で畑0・75㌶、樹園地1・8㌶で栽培。これらを利用し2834平方㍍の直売所で消費者直売などを行っている。

同社では2007年に交流スペースを併設した農産物直売所「野市里（のいちさと）」、市民農園「向日葵」をオープン、翌年には観光りんご園を開園した。その他、地域と連携し津軽凧や津軽三味線の体験教室の開催、レストランで郷土料理の提供、農作業体験の受け入れなど「女性従業員のアイデア」による企画を実施、地域の活性化に貢献している。

「女性の視点でニーズを捉え、商品をつくり、サービスを提供する」というモットーから、やりがいを感じて働ける環境づくりに努める一方、環境の整備も欠かさない。女性がより快適に働けるように専用トイレのほか更衣室を設け、また育児・介護休業や家族看護のための休暇が取りやすいように希望に合わせた勤務時間を設定するなど、女性が働きやすい職場になるよう配慮している。

大分県豊後高田市の㈱赤野農園。ここでは、主にイチゴの高設栽培130㌃とそばの受託86㌶を行っている。家族労働を主体とした経営に限界を感じ「子育て世代を応援する企業」を経営理念に、子育て世代の女性の雇用を進めている。同社では学校行事を優先できるシフト体制の構築の他、敷地内に女性専用トイレ・シャワールーム、作業負担軽減のためのAT電機軽トラ、収穫物運搬用にローラーコンベアを導入し女性が作業しやすい環境を整えた。

農業現場で進むトイレの導入

快適なトイレを提案

クボタと日野興業　"レンタル"の選択肢も

快適な農作業環境に必要なのが清潔なトイレだ。"農場のトイレは汚い・臭い"といったマイナスイメージが定着してしまっているが、近年ではお洒落で清潔なタイプを登場させるなど、メーカー各社も開発に力を入れている。トイレは作業場の環境改善はもちろん、観光農園を運営しているなら、リピーター獲得の上でも重要なポイントになっている。レンタルなどニーズにあった導入法も可能になっており、是非一度導入を考えてみてはどうだろう。

日野興業の谷本氏（左）とクボタの前田氏（右）

細やかな配慮がうかがえるトイレ

花火大会、屋外でのイベント、観光農園など、私たちはさまざまな場面で仮設トイレを使用する機会があるが、注目することはほとんどない。しかし、トイレというものは人が生活している場所には欠かせないものだ。人が働く現場でもそうだ。仮設トイレに限って言えば、建設業界では必要な期間、レンタルする仕組みが浸透しており、最近でいえば"けんせつ小町"、すなわち建設業界で働く女性に快適な環境作りが進んでいる。

一方、農業業界は、女性の農業従事者が半数はいるというのに、そのような側面からもまだまだ女性が働きやすい現場とは言いにくい。そこで、今回は、仮設トイレのメーカーである日野興業・営業企画部長の谷本亘氏と、そのトイレを販売・レンタルするクボタ・農業ソリューション営業部の前田千明氏に、農業業界での仮設トイレの現状、これからについて話を聴いた。

谷本氏は「農業での仮設トイレの利用が最近知られてきてはいるが、まだまだだ。女性の雇用、これからの担い手という点からも、やはり快適な職場環境は必要だろう。例えば、トイレが遠くにあるとなると作業効率は落ちる。トイレが生産性向上にもつながってくるだろう」と述べた。

前田氏は「このところ法人農家も増え、それに伴い日野興業さんの仮設トイレの需要も増えてきた。雇用の面からも仮設トイレの必要性を感じている」と述べた。さらに、果樹園などの観光農園で、期間限定的に人が多く訪れる場面でも必然的にトイレは必要となる。

谷本氏は「建設現場では主流となっている仮設トイレのレンタルだが、農業業界ではあまり知られていない。雇用面、期間的なことで、"その時だけ"トイレが必要なのは農業も一緒。もっと手軽にレンタルできることを知ってもらいたい」とした。

前田氏も「やはり、トイレを購入するとなると少しハードルが高く感じられるのかも。レンタルという方法があることを知ってもらえれば嬉しい。快適な職場環境がこれからの担い手、農業に繋がっていく」と展望を語った。

日野興業が製造し、クボタが販売・レンタルする仮設トイレは、快適さを重視した、いままでの仮設トイレとは異なる。女性目線を大事にしている同トイレには、細やかな配慮がうかがえる。

現地ルポ

女性客にも大好評

画期的な農地専用のトイレ「アグリレット」

「珍しい品種も多く栽培している」と正木代表

「お客さん目線で考えトイレには特に気を配った。臭いも気にならないので大正解だった」と正木武代表（61歳）。ブルーベリーガーデンマサキでは養液栽培で育てた無農薬の甘いブルーベリーを心ゆくまで味わえると評判の同園。女性客が多いことから随所に工夫をこらした心配りがなされており、その一つが農地専用トイレ「アグリレット」の採用だ。

昨年オープンしたブルーベリーガーデンマサキ＝埼玉県坂戸市戸宮623－1、電話090－7821－6456＝では、6000㎡のほ場で35種約900本のブルーベリーを育てている。40分1300円（時期により変更有り）の食べ放題を行っている同園のコンセプトは"障害者も楽しめる農園"。ほ場を3区画に分けてその1区画を車椅子で通れるよう幅を広く取り、鉢植えで生産して取りやすい場所に移せるよう配慮している。

ブルーベリーは米糠や籾殻、油かす、魚粉などを用いたぼかし肥料と養液栽培により必要な栄養素を適宜供給するシステムで栽培。木から摘み取って口に入れると、これまでのブルーベリーに対する認識を一新させるほど甘く美味。市場で販売した際に、試食すれば迷わず購入されるというのも納得。こうした評判が広がり、女性や高齢者を中心に問い合わせを受けている。細部までこだわる正木代表が頭を悩ませたのがトイレ。思案してたのがトイレは農地用トイレ「アグリレット」だ。

バイオの力で分解する点が気に入った、と正木代表。「トイレ選びで考えたのがキレイで清潔なこと。特に臭いは心配したが、アグリレットは簡易水洗式で臭いも気にならないので安心して使っていただける」と話す。

設置しているハウスに案内していただくと本当に気にならない。当初は外に設置していたが、奥さんの提案で、雨の日でも便利に、と現在の資材置き場用ハウスに移設したそうだ。「設置も簡単で日々の手入れの手間がかからないのがいい。女性客の割合が多いので"トイレは綺麗に"と考え選んだのは正解だった」と笑顔で答えた。

2年目を迎え、園内に休憩所を設けるほか全国発送も開始するなど、更なる充実を図る正木代表。「もっとブルーベリーの美味しさを楽しんでもらえるよう努めたい」。

「アグリレット」に関する問い合わせはロンシール機器（東京都千代田区神田佐久間町、電話03－3862－9825）へ。

簡易水洗式で清潔

いろいろな農地で使用可能
自家用農地、集団農地など農地であればどこでも使用できます。

農地専用トイレ「アグリレット」

農作業のみなさん 特に女性のみなさん、トイレにお困りではありませんか？

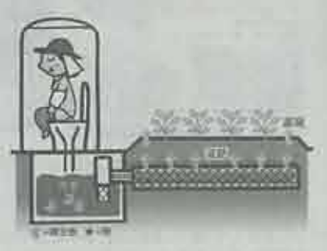
女性作業者、観光農園のお客様に大好評！

農園や果樹園で作業をされている時、観光農園で来場されるお客様に快適なトイレは重要な条件といわれています。室内は広々！特に女性に喜んで頂けること「間違いありません」

おしゃれで高級感のあるデザイン
天井がトップライトになっており室内は明るく喚起を重視した設計です。

電気・水道不要の水洗トイレ
およそコップ1杯の水で洗浄されます。付属のポリタンク(18ℓ)で約70回分を賄います。

長い期間くみ取り不要
トイレで使用した汚物を特殊な酵素で分解させ、液体は特殊パイプで土壌に送り、液肥として植物に吸収されるシステムです。



《希望小売価格》335,000円(消費税別)＋送料。
施工につきましては、「施工・取扱説明書」を用意しております。

詳しいお問い合わせ、資料請求は下記まで。

ロンシール機器株式会社
〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町4-6・東邦センタービル2F
☎03(3862)9825　FAX.03(3862)9810
ホームページアドレス　http://www.lonsealkiki.co.jp/

トイレで農業を快適にサポート

こんなお悩みはありませんか？
●トイレのためにいちいち事務所や家に帰るのが面倒だ…
●農作業で汚れた作業着で事務所や家のトイレを使うのはちょっと…
●従業員・パートの方の作業環境を改善したい…

日野興業の仮設トイレで解決！

使いやすい洋式仕様・簡易水洗タイプは工事不要の簡単設置
販売、レンタルどちらも対応・1か月からレンタルOK

詳しくはお問い合わせください
日野興業株式会社
営業企画部 営業企画課
〒272-0004 千葉県市川市原木3024番地
TEL 047-318-8761　FAX 047-318-8758
支店：東京・仙台・埼玉・名古屋・大阪
営業所：札幌・盛岡・秋田・山形・郡山・宇都宮・長野・新潟・茨城・神奈川・静岡・三岐・神戸・京滋・岡山・広島・山口・高松・徳島・高知・松山・福岡・西九州・宮崎・鹿児島
http://www.hinokogyo.co.jp